

令和7年 第18回

教育委員会定例会会議録

令和7年12月25日（木）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2670号
令和7年第18回定例会

日 時 令和7年12月25日(木) 午前10時00分 開会

場 所 港区役所7階 教育委員会室

「出席者」	教 育 長	新 宮 弘 章
	教育長職務代理者	田 谷 克 裕
	委 員	中 村 博
	委 員	鈴 木 令 奈

「欠席委員」	委 員	山 内 慶 太
--------	-----	---------

「説明のため出席した事務局職員」	教育推進部長	佐々木 貴 浩
	学校教育部長	茂 木 英 雄
	教育長室長	若 杉 健 次
	生涯学習スポーツ振興課長	中 林 淳 一
	図書文化財課長	吉 田 宗 史
	学 務 課 長	鈴 木 健
	学校施設担当課長	河 原 一 禎
	教育人事企画課長	大久保 和 彦
	教育指導担当課長	清 水 浩 和
	先端教育担当課長	溝 口 貴 裕

「書 記」	教育総務係長	若 木 康 治
	教育総務係	須 田 藍 子

「議題等」

日程第1 報告事項

- 1 令和7年度卒業式のあいさつについて
- 2 ホストチューデントプログラムについて
- 3 後援名義等の11月使用承認について
- 4 生涯学習スポーツ振興課の11月事業実績について
- 5 生涯学習スポーツ振興課の各事業別利用状況について
- 6 生涯学習スポーツ振興課の11月事業予定について
- 7 図書館の11月分利用実績について

- 8 図書館・郷土歴史館の11月行事实績について
- 9 図書館・郷土歴史館の1月行事予定について
- 10 1月教育人事企画課事業予定について
- 11 みなと科学館の11月利用状況について

「開会」

○教育長 ただいまから、令和7年第18回港区教育委員会定例会を開会します。

本日は山内委員から、所用により欠席とご連絡を頂いています。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○教育長 それでは、日程に入ります。

本日の署名委員は、鈴木委員をお願いします。

日程第1 報告事項

1 令和7年度卒業式のあいさつについて

○教育長 次に日程第1「報告事項」に入ります。初めに、報告事項の第1「令和7年度卒業式のあいさつについて」です。説明をお願いします。

○教育指導担当課長 資料No. 1に基づきまして「令和7年度卒業式のあいさつについて」報告いたします。内容を御覧ください。よろしいでしょうか。初めに小学校についてです。今年の小学校のテーマは「どのような状況であっても希望を持つことの大切さ」、「地道な努力と挑戦が未来を変えること」についてでございます。

このテーマにした理由を説明いたします。今年度の卒業生は、小学校入学時、コロナ禍において一斉休校や分散登校を経験いたしました。そうした中でも、友達と一緒に勉強や運動を頑張りたいという前向きな心で小学校生活を積み重ねてきました。小学校で身につけた力を生かして、これから困難が訪れることがあっても、地道な努力と挑戦が未来を変えることができるということを伝えたいということを考えたためでございます。

具体的な内容としては2点です。1点目は、小学校入学時、コロナ禍で思うような環境で過ごすことができない状況であっても、希望を持ち、前向きな心で小学校生活を通して身につけてきた確かな力をこれからも大切にしてほしいということ。2点目は、生まれつき耳がきこえにくい世界を生きてきた陸上選手・山田真樹さんが、地道な努力を積み重ね、東京2025デフリンピックで金メダルを獲得した。困難が訪れることがあっても、挑戦することを恐れず歩み続けてほしいという内容でございます。

続きまして、中学校についてです。今年の中学校のテーマは「グローバルな世界で『真の国際人』として活躍することへの期待」と、「日々の努力を継続することの大切さ」です。

このテーマにした理由について説明いたします。教育委員会では、国際理解教育を重点施策の一つとし、国際科・英語科国際の授業、シンガポールへの海外修学旅行などを実施しております。港区立中学校を卒業し、義務教育を修了する子どもたちに、これまでの学びや経験を生かしながら日々の努力を継続し、グローバルな世界で活躍することへの期待を伝えたいと考えたためでございます。

具体的な内容としては2点です。1点目は、海外修学旅行などで進んでコミュニケーションを取る姿や、異文化に直接触れることで改めて自国の文化のよさに気づく姿が見られました。小・中学校におけるこれらの経験は、将来により影響を与えるものであるという内容。2点目は、ロサンゼルスドジャースの山本由伸選手について、オフの日にも練習するなど日々の努力を続け、ワールドシリーズにおいてチームの優勝に貢献し、MVPとして表彰されました。山本選手のように努力を積み重ね、持てる力を最大限に伸ばし、国際社会で活躍してほしいという内容のものでございます。

以上、説明は簡単ではございますが、よろしく願いいたします。以上でございます。

○教育長 ただいまの説明に対して、ご質問等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

この内容をベースにして、今度文章形式で出てくるのは、いつ頃になりますか。

○教育指導担当課長 1月の第2回教育委員会でご提出することになっています。

○教育長 という予定になっております。この時点で、この項目を入れた方がいいというご意見があればお願いいたします。

○教育長 山内先生には事前に送付していて、特段、今のところご意見はないということですよ。分かりました。では、今回のこの内容で案文をつくらせていただきまして、1月の教育委員会でまたお諮りしますので、よろしく願いいたします。

それでは、この件については以上とさせていただきます。

2 ホストチューデントプログラムについて

○教育長 次に、報告事項の第2「ホストチューデントプログラムについて」説明をお願いします。

○先端教育担当課長 それでは、教育委員会報告資料No. 2に基づきまして「ホストチューデントプログラムについて」ご報告させていただきます。本件は、オーストラリアのパース市の中学生と高校生を区立小中学校の児童・生徒の家庭で受け入れるホームステイ事業を実施させていただきます。概要といたしましては、令和8年1月22日木曜日から同月25日日曜日までの期間で、区内児童・生徒の家庭で受け入れるホームステイ事業という内容でございます。

受入人数としましては、パース市の中学生・高校生14名。概ね14歳から17歳まででございます。受入家庭につきましても、受入人数と同じ14家庭でございます。本受入れに当たっては、10月2日から同月20日までの募集期間としまして、29家庭の応募がありまして、その中から送迎の有無であったりですか、実施学校の近く、距離等も踏まえて、14家庭を選考いたしました。

実際、令和7年12月17日、先週ですが、ホストファミリー向けの説明会というものを開催してございます。今回の授業の体験内容としましては、小中一貫校の赤坂学園と白金の丘学園、お台場学園の3校での授業体験というものと、受入家庭におけるホストファミリーとの体験というものを考えてございます。

項番3「今後のスケジュール」ということで、1月22日の授業体験から始まりまして、25日の日曜日にホストファミリーと最後、お別れという流れということでございます。説明は簡単ですが以上でございます。

○教育長 ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問があればお願いいたします。

○中村委員 どういう家庭が名乗り出てきたのか。ホストファミリーとして14の家が名乗り出てきて選ばれたのでしょうかけれども、例えばマンションなのか、一軒家なのかとか、どういう職業の方の家なのかとか、その辺りが分かれば教えてもらえますか。

○先端教育担当課長 今回、14家庭の受入れにつきましては、小学生の家庭が7家庭、中学生の家庭が7家庭でございます。具体的に職業等につきましては、こちらの方で要件等で確認していないので分からないのですけれども、一般的に会社で働かれているような方も複数、共働き家庭も複数ございました。基本的には、マンションのご家庭が多いという状況でございます。

応募した家庭の理由としましては、実際にその家庭の児童・生徒が海外派遣を体験して、オーストラリアの方ですごくいい経験をさせてもらったということ、逆に恩返しではないですけども、そういったところをお返ししたいということで、今年、中学校の海外派遣に行った家庭や過去に体験した家庭などが応募していただいている状況でございます。

そのほか、PTA関係の家庭も複数いるという状況でございます。説明は以上でございます。

○中村委員 何か事故が起きたときの対応は、どういう対応になりますか。

○先端教育担当課長 本事業につきましては、近畿日本ツーリストが委託事業者として間に入っているという状況でございます。事件・事故発生時につきましては、教育委員会の緊急連絡先に速やかにご連絡いただき、対応をするということを考えてございます。

○中村委員 土日は完全にホストファミリーに預ける形なのですね。

○先端教育担当課長 土日につきましては、ホストファミリーと一緒に過ごしていただくということを考えてございます。なお、学校の体験の際には、送り迎えのタイミングで教育委員会の指導主事であったりですとか、先端教育担当が同席ということを考えてございます。

○中村委員 14人の通う学校は、みんな違うということですか。

○先端教育担当課長 14名の家庭の中で、お台場学園が4名、赤坂学園が5名、白金の丘学園が5名という内訳になってございます。

○中村委員 特に土日の、家庭に基本的に預けている際に、その中で事故に遭うとかした場合に港区にはどのような責任がかかってくるのですか。その辺は分かりますか。

○先端教育担当課長 今回ですけれども、我々日本側も教育委員会と委託事業者、近畿日本ツーリストが入って、基本的には事故が起きた場合は、保険によって対応するということでございます。

あわせて、今回パスから来る際に、海外派遣で現地でホストファミリーの調整をいただいているゴールド社という現地の法人も、こちらに日本人スタッフが何名か来て対応するということなので、その辺につきましても現地で、こちらに来るときに保険に入ってくるということも確認してご

ざいます。ですので、基本的には教育委員会の大きな過失等がない限りは現地で入った保険で対応するということを確認してございます。

○中村委員 その保険というのは現地、いわゆるオーストラリアの保険会社の保険に入っているということですか。

○先端教育担当課長 オーストラリア側で保険に入って、こちらに来られるということでございます。

○中村委員 分かりました。ありがとうございました。

○教育長 ほかは、いかがでしょうか。

○鈴木委員 ありがとうございます。お伺いしたいのですが、土日の過ごし方などについて、説明会でどのような説明をされたのかということと、アレルギー対応に関して、どのような基準があるのかというのを教えてください。

○先端教育担当課長 ホストファミリーへの説明会の際には、ホストチュードントガイドブックというものを配って、中身についてご説明の方をしています。基本的には、我々は行ったときにもお願いしていて、こちらもそうなのですけれども、例えば「お互いの文化を尊重しましょう」であったりですとか、あとは日本での普段の生活というものを現地のパース市側の中高生も期待しているところなので、基本的には普段の生活ということを考えてございます。

家庭によっては、やはり観光地とかに連れて行ってあげたいとか、日本食を食べさせてあげたいというところもあるので、その辺については、先程アレルギーの説明もありましたが、こちらからアレルギーのリストであったりですとか、あとは基礎疾患、そして宗教上踏まえるべきものなどについても、事前にホストファミリー向けに個別に情報提供して対応しているというところでございます。

○教育長 よろしいですか。

○鈴木委員 ありがとうございます。大丈夫です。

○田谷委員 日本の場合は家の環境がオーストラリアと違って往々にして狭いものですから、予備の部屋があるとかそういうことがないことが多い。そうすると一般的な家庭でということだと、その辺の選考基準みたいなものはいかがなのでしょうか。

○先端教育担当課長 基本的には、ホストファミリーに対しては、用意できれば個室、無理であれば同性との相部屋というものをお願いしているというところでございます。一人ひとり、選考する際にオンラインにて面談も行ってから決定をしていて、こちらの事業の趣旨も十分に伝えた上でご了承いただいているというところでございます。

逆に去年の経験ですと、個室というか、相部屋でみんなと一緒に寝るみたいなどころも、日本の文化の一つとして現地の学生から好評を得ていたというご意見もございました。以上でございます。

○田谷委員 どうもありがとうございます。確かに日本の家庭、一般的な家というのはこういうものだから、というものを理解してもらおう。これも日本の文化の一つだと思うので、大いに結構なことだと思います。ちなみに、先方国から来る男女比は大体何人何人ぐらいなのでしょう。

○先端教育担当課長 受入人数14名のうち、女性が5名、男性が9名という形の内訳になってございます。

○田谷委員 分かりました。ありがとうございます。それに合わせて先方、受け入れる方の側も、男の子には男の子、女の子には女の子というようなことが望ましいし、そうされるのだと思っております。先方のホストファミリーの全体的な英語力というのは、どうでしょうか。

○先端教育担当課長 一般的な英語力というものは備えている家庭が多いという印象でございます。逆に、パース市の学生たち向けには、なるべく日本語で話すようにというところをお願いしているところです。去年、英語を日本人側が結構話せるということが分かっちゃって、パースのオーストラリアの生徒が、結構英語で話しかけてくるのが多くて、逆にそうすると、あんまり体験として効果が薄くなってしまいますので、できるだけ日本語を覚えて、日本に興味があるので日本語で、家庭ではしゃべってもらえるような形をお願いしているというところでございます。

○田谷委員 ありがとうございます。英語の場合は国際語というところがあるので英語の勉強をしているのですけれども、先方国の子供たちというのは、日本語の勉強というのはしているのでしょうか。

○先端教育担当課長 募集の段階で、ある程度日本に興味のある方ということと、あと、日本語についても一定程度学んできていただきたいといったことは伝えているという状況でございます。

○田谷委員 分かりました。ありがとうございます。もちろん日本までわざわざ来る訳ですので、日本に興味のある子たちが多いことだと思います。それと一つ、一番心配なことは、日本側のホストファミリーに金銭的な負担をかけるということがあるのですけれども、その辺のことはいかなのでしょうか。

○先端教育担当課長 基本的には報償費という形で対応を考えているところでして、金額につきましては、1万6,000円、1日4,000円程度の試算でやっております。去年は1万円だったので、一応今年、物価高騰も踏まえて6,000円上げているという状況でございます。

○田谷委員 ありがとうございます。子どもたちには楽しんでもらいたいと思うのですけれども、この4日間という日程は少し短いかなと思えました。港区の小中学生がオーストラリアに行く場合は、10日くらい行っている訳ですので、この辺もうちょっと長くしてあげることはできないのでしょうか。

○先端教育担当課長 先程ちょっと説明させていただいた、現地の法人のゴールド社がその辺の行程も考えてございまして、港区との連携事業につきましては4日間なのですけれども、その前後で日本でのほかのプログラムというものも考えてやっていると。ですので、合計で約10日間くらいは日本に滞在する予定でございます。

○田谷委員 分かりました。ありがとうございます。できれば、今日は間に合わなければいいのですけれども、全体的な日程がどういう感じになるのか、お知らせいただきたいというふうに思っております。

それで、できれば先方国の子どもたちが来ているときに学校に参観に行ってみたいと思うのですが、その辺のところのお手配もしていただきたいと思います。私の方からは以上です。

○教育長 参観は可能ですか。

○先端教育担当課長 参観は基本的には可能でございますので、日程を含めて教育委員の皆様には情報提供させていただきます。

○教育長 ということで、よろしくをお願いします。

ほかは、いかがでしょうか。

○鈴木委員 お伺いしたいのですが、去年の授業体験をした学校はどこになりますでしょうか。それから、今回3校選ばれた経緯と、今後どの学校でやっていくかという方向性というのが、もし決まっていたら教えてください。

○先端教育担当課長 昨年度につきましては、事業初年度ということで、赤坂学園と白金の丘学園の2校で実施したという状況でございます。今年に関しましては、学校からの要望もあり、お台場学園を3校目として追加している状況でございます。

今後につきましては、基本的には小中一貫校の4校で、例えば受入れについて回していくところを事務局内では想定してはいるのですけれども、そこにつきましては今後学校と丁寧に調整の方をしていきたいということを考えてございます。

○鈴木委員 中高一貫校に限る理由を教えてください。対象年齢が14歳から17歳ということなので、小学校も含めて小中一貫校である理由というのを教えていただければと思います。

○先端教育担当課長 今回、小中一貫校を選んだのは、小学校・中学校のプログラムを両方体験できるスケールメリットがあるということです。今年度につきましても同じような考え方を踏襲しまして、小中一貫校で3校というところを選んでございます。あと、まだ今はプログラムをつくっているところなのですけれども、基本的に赤坂学園の今のプログラム案ですと、中学生プラス小学校高学年というところでの交流みたいなものも考えているという状況でございます。

○鈴木委員 少し不公平感が出てしまっているというご意見もお聞きしています。小中一貫校でやるという方向が一番プログラムとしてやりやすいというのは理解しているのですけれども、同じ学校でずっとやっていくというのが今後続いていく方向であるのであれば、もう一度そこはしっかり考え直さないと、ほかのエリアの方々からの不平不満というか、こっちの学校でもやりたいというリクエストも聞きますので、その辺を精査した方がいいのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○先端教育担当課長 ご意見ありがとうございます。一応、今年度が2年目ということで、まだまだ模索中のところもございます。おっしゃったとおり、基本的には小中一貫校というところで、こちらの方も学校側とのメリットも含めて考えているところではございますが、今言った地域性の偏

りにつきましても、委員ご指摘のとおり、そこも考慮して学校の選定というのは今後、次年度以降考えていきたいということをお答えさせていただきます。

○鈴木委員 ありがとうございます。

○中村委員 先程、田谷委員からも出ていたのですけれども、ホストファミリーの中で使う言葉です。日本からとってみると、英語で話した方が、子どもたちの英語力には役立つのでしょうかけれども、あくまでもこちら側が受入れる側なので、やはりオーストラリア、パースから考えれば、まさに日本語で話して日本での体験をいいものにするというのが趣旨だと思うので、日本語で対応するという方が、パースにとっては制度趣旨に合っていると思うのです。全く日本語が駄目な人だったら話はまた別ですけれども、ある程度日本に興味があったり、日本語を学んでいる人がいいというようなことが先程の説明でもありましたので、できたら日本語を中心にして、家庭内でも話すようにすればいいし、学校でもそうだと思うのです。学校でも英語を話せる子はいるのでしょうけれども、基本的には普通の授業にしてあげればいいと思いますし、日本語でやっている授業を中心として見せてあげるというのが制度の趣旨にかなっていると思うので、そういう方向でやってもらいたいなと思いました。以上です。

○先端教育担当課長 中村委員がおっしゃるとおり、基本的にホストファミリーの方の説明としても、現地の、オーストラリアの学生については日本語で日本文化を学ぶことを目的にしています。こちらとしましては、こちら側の言語を高める場というよりは、国際理解教育の我々側のメリットとしては、色々な文化や先方の伝統、そして多様性を学ぶというところでの国際理解教育の授業として位置づけておりますので、基本的には先方の学生の学ぶという姿勢、日本語を学ぶという姿勢で、そこにつきましても考慮しまして、日本語での対応ということを考えてございます。

○中村委員 ありがとうございます。

○先端教育担当課長 ほかは、いかがでしょうか。

○鈴木委員 すみません、もう一つ質問させてください。14名の現地での選考をされたと思うのですけれども、実際には応募者数というのは、何名のうちの14名なのでしょうか。

○先端教育担当課長 現地の確認をしたところ、基本的に20名程度を想定していて14名だったというところでした。ですので、お申込数としても14名になります。

○鈴木委員 分かりました。ありがとうございます。

○田谷委員 受入校の方の受入れする時間の授業は、どのような授業をするのでしょうか。私の質問の骨子でいうと、オーストラリアの子どもが来て、国語の授業もいかなものかなと思いますし、また英語の授業はバッチリになってしまうと思うのですが、その辺はどうなのでしょう。

○先端教育担当課長 まだ詳細のカリキュラムについては各学校で検討いただいているところなのですが、バランスよく全ての授業を体験していただくということを考えております。海外派遣事業でも、我々が現地校に行ったときには、それぞれ日本語を学ぶ時間であったりですとか、理科、そして例えば社会とか、全ての教科を体験させていただいているので、こちら側も満遍なく日本の授業を体験していただくということを考えてございます。

去年、白金の丘学園にはご配慮いただき、体育の時間の中身を変えて、日本の武道とかそういうものを学べるように変えたりなど、学校で工夫を頂いていたということを聞いてございます。

○田谷委員 分かりました。色々受け入れる学校の方もご苦労があるかと思いますので、よろしくお願いたします。

○教育長 ほかは、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

色々ご意見、ご質問を頂きましてありがとうございました。まだ2年目の事業で今後改善の余地もあるのかなと思しますので、今後実施していく中でご意見を生かしていきたいと思します。それでは、この報告については以上とさせていただきます。

- 3 後援名義等の11月使用承認について
- 4 生涯学習スポーツ振興課の11月事業実績について
- 5 生涯学習スポーツ振興課の各事業別利用状況について
- 6 生涯学習スポーツ振興課の11月事業予定について
- 7 図書館の11月分利用実績について
- 8 図書館・郷土歴史館の11月行事実績について
- 9 図書館・郷土歴史館の11月行事予定について
- 10 11月教育人事企画課事業予定について
- 11 みなと科学館の11月利用状況について

○教育長 次に、報告事項第3「後援名義等の11月使用承認について」から、報告事項第11「みなと科学館の11月利用状況について」この9件の定例報告については、配布資料のとおりになります。各報告事項について、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、これらの報告事項は以上とさせていただきます。

「閉会」

○教育長 本日予定している報告事項は全て終了しましたがけれども、委員または説明員からその他、何かございますでしょうか。

特によろしいですか。それでは、以上で全ての案件は終了です。

本日が年内最後の教育委員会ということになります。この1年間、先生方、ありがとうございました。色々課題がありましたけれども、それぞれの専門のお立場でのご意見やアドバイス、それと多くの行事にもたくさんご出席していただきまして、ありがとうございました。来年も引き続きよろしくお願い致します。

次回の定例会は1月8日木曜日を予定しております。どうぞ健やかなよい新年をお迎えいただければと思います。

それでは、以上をもちまして、本日の教育委員会は閉会いたします。お疲れさまでした。

会議録署名人

港区教育委員会教育長

港区教育委員会委員